事例 No. 安来 3

経営体状況

◆ 地　区　名／安来
◆ 経営体区分／法人
◆ 営 農 類 型／露地野菜＋施設野菜
◆ 作　　物／キャベツ、ブロッコリー、スイートコーン、青ネギ、キュウリ、ジャンボピーマン、レタス、イチゴ
◆ 区　　分／農地所有適格法人以外の法人

• 作目別作付け面積 (a)

キャベツ	1,760	イチゴ	20
ブロッコリー	420	キュウリ	14
スイートコーン	120	青ネギ	7
レタス	30	ジャンボピーマン	7

• 所有施設・機械一覧　施設・機械名・規格　数量

トラクタ 57,51,30ps			3 台
トラック	1 台	管理機	2 台
軽トラック	2 台	冷蔵庫	3 基
定植機	5 台	パイプハウス	35 棟

経営の概要

大手スーパーが出資して平成 21 年に設立された農業法人は、現在、国内で 21 箇所の直営農場を経営している。

島根県では安来干拓地において、平成 24 年から営農しており、経営面積は約 23ha の規模となっている。

経営地を上空から撮影

この法人の経営理念は、「農業の発展とお客さまの価値を創造する。」として新鮮で安心な野菜を提供するため、GLOBAL G.A.P.（農業生産工程管理）手法を取り入れ、厳しい基準で農産物の生産管理を行っている。

なお、農産物は、プライベートブランドとし中国地方の系列スーパー等に出荷している。

経営の成果

干拓営農開始時に確保した農地面積に比して、現在の栽培面積は２倍以上となり、生産量も増加している。

なお、経営の主体となっているキャベツの反収も年々増加傾向となっている。

近年、栽培を開始したイチゴは順調に生産、出荷し、消費者からも好評を得ている。

生産面においても、干拓地内にある県農業普及部の指導、協力を得、順調な生産を行っている。

今後の取り組み

キャベツの周年出荷が可能な生産体系の確立を目指し、引き続き生産性の向上を検討していく。

また、需要があるタマネギの機械化体系の確立を図るため、試験栽培を実施し、栽培面積の拡大を目指す。

キャベツ栽培状況

出荷期を向かえたイチゴ